

## 【B】『選挙編』

以下の設定・台本で、カメラに向かって一人芝居を演じてください。

一応「台詞」の形で書いてありますが、大筋が合っていれば、細かい言い回しは自由です。あなたなりの工夫を入れてみてください。

最後に、素のあなたに戻って、簡単な自己紹介をお願いします。

以上を、**全体で概ね3分半以内、編集なし・1カット**でお願いします。

### 《設定》

あなたは元・放送局のアナウンサーです(年齢は自由に設定してください)。

少し前のある出来事で世間の大きな注目を浴びたあなた、何かの会見の場で話し始めます。

### ■スタート■

あなた

そうなんですよ、はい、半年前まで私、〇〇年ほど、毎朝まいちようテレビのアナウンサーでした。

ご存知？ 夕方のニュース枠で、デパートの駅弁大会のリポートしたり、なんてあんなことやんのか知らないですけどね、ニュース番組で。ええ、バラエティも出てましたよ。全く段取り覚えないう大物タレントに割と大胆にお尻触られながら、「次のコーナーは…ちよつとやめてください！ あ、生放送でお送りしています！」と半泣きで進行したり。もちろん、ゲテモノ含むありとあらゆる食リポ、コンプラギリギリの罰ゲームにも耐え抜いてきました。

そんな私です、突然政治担当なんてありえます？ 大谷翔平に、「秋場所の土俵に立って横綱と相撲取れ」っていうようなもんでしょ。あ、ちよつと自分を大物に喩えすぎてる？ すみません？ ペロ（とか、可愛いポーズ）。

で、政治班として最初の仕事が例の市長選挙ですよ。開票速報の番組のリポーターで、私が行かされたのが…例の惜しくも落選した新人候補・曾根崎よしお。無風だったはずの選挙に新しい風が吹いた！ イケメンだし…なんてマスコミがインタビューに殺到したら、ほら、想像を絶する感じ悪い対応で。質問を質問で返すとか、どうせカットするから答えないとか、酷かったじゃないですか。各社のベテラン記者が全滅。そこに、まあ、バラエティ界ではそれなりにキャリア積んでるとはいえ、この世界では全く素人の私、〇〇（自分の名前）が登場ですよ。現場の連中、固唾を飲んで見守ってましたねー、どんな修羅場になるのかって。

ええ、そう。その時の私の第一声かもはや伝説といってもいいあれね。「もうパクチー食べられるようになりました?」。あの時の彼の眼、忘れられない。「なんで君がここに?」…そう、私たち一時付き合ってたんです、学生時代けっこう親密に。でも、あの男パクチーが大の苦手で、人前で、いちいち料理の中から選り分けて残すんですよ、みっともない。それで私の方から別れたの。ええ、些細なことでもどうしようもなくイヤってことありますよね人間って。あの瞬間から、かれ別人になったみたいに、私の質問に何でも素直に答えたでしょう、借りてきた猫みたいに。え? 私がどうしてあの場であんな自信を持てたのか?…あのね、これ今日初めて言いますけど、あの時彼がしていたネクタイ、私のプレゼントなんです。「あ、まだ未練があるんだ!」って、ほら、ネクタイって、私に首根っこ掴まれてるってことじゃないですか、ははは…。えーそんなわけで、いろいろあって今回、私〇〇が来たる知事選挙に立候補する運びとなりました。折角ですから、私の事務所のスタッフも紹介しておきます。チーフは彼、曾根崎よしおくん。本日も同じネクタイをしております。パクチーはただいま修行中です。

### 素のあなたに戻り

…ありがとうございます。〇〇〇〇です。

### (自己紹介)

以上です、よろしくお願ひします。

■終了■